

# 琉球大学学術リポジトリ

「プロフェッサー・オブ・ザ・イヤー」を受賞して

メタデータ	言語: 出版者: 琉球大学大学教育センター 公開日: 2018-07-17 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 運天, 亜紀子 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="http://hdl.handle.net/20.500.12000/41365">http://hdl.handle.net/20.500.12000/41365</a>

## 「プロフェッサー・オブ・ザ・イヤー」を受賞して

「基礎中国語Ⅱ」担当 運天亜紀子（非常勤講師）

### はじめに

このたびは思いがけず平成 22 年度の「プロフェッサー・オブ・ザ・イヤー」をいただき、驚きと、喜びと、身の引き締まる思いを同時に感じています。非常勤講師で中国語の専門でない私がこのような賞をいただき、その上中国語の授業についての拙文を寄せて良いものかと気が引けました。しかし、平成 13 年から約 10 年間琉球大学で中国語を担当させていただき、その間試行錯誤しながら積み重ねてきたことが僅かでも学生の役に立ち、一定の評価をいただけたことを素直に喜びたいと思います。そして大変僣越ではありますが、感謝の気持ちと内省の意味を込めて私の「基礎中国語Ⅱ」の授業内容についてお話しさせていただきます。

### 授業について

先に申し上げたように、私は中国語を専門に学んだわけではありません。従って私の行う授業のほとんどは私がかつて受けた中国語の授業の経験（記憶）をベースに、授業を実践する中で試行錯誤を繰り返しながら構想してきたものです。極めて自己流で、緻密な理論や由緒ある教授法をふまえたものではないということを予めお断りしておきます。

まず「基礎中国語Ⅱ」は「基礎中国語Ⅰ」に連続して行われており、前期と後期で 1 冊の教科書を通用するため、「基礎中国語Ⅰ、Ⅱ」一貫した授業計画を意識しています。以前は中国語を第 2 外国語に選択した場合Ⅰ、Ⅱの修得が必須でしたが、現在は「Ⅰ」のみ必修となりました。そのため、現在「基礎中国語Ⅰ」を受講した学生の 2 割は「Ⅱ」を受講せず、中国語修得を中断してしまいます。それだけに、単に外国語科目の単位取得という目的だけではなく、中国語を学びたいという意欲を持続させるための工夫がとても重要になっているように思います。そこで、ここでは「基礎中国語Ⅰ、Ⅱ」の授業の中で私が意識的に実施している事柄や気を付けていることを取り上げてみたいと思います。

#### 1、開講時にアンケートを実施

「プロフェッサー・オブ・ザ・イヤー」は学期末に大学の要請で実施する授業評価アンケートによるものですが、それとは別に、私は開講時に受講生に対して簡単なアンケートを実施しています。質問内容は①「中国語を選択した理由（目的）は何ですか」②「中国語を学んだことがありますか」（あると答えた人はどのような方法で学びましたか）③「あなたが中国に関して興味を持っていることは何ですか」の 3 つです。当初は授業の導入時の参考になればという思いつきで始めたものですが、学生の顔と名前を覚えるのに役立ちますし、学生達がどのような意識で授業に臨むかを把握することができます。また、アンケートをもとに学生の学習目的や興味に合わせた教材を投入しています。例えば、「中国語

検定試験」の模擬テストの実施や中国映画の DVD 鑑賞、中国の流行歌の紹介、中国語による漢詩の朗読等です。

## 2、「多听,多说,多写」(よく聞き、よく話し、よく書く)

中国の学校に行くと、教室の壁に「多听,多说,多写」(よく聞き、よく話し、よく書く)ということばが書かれているのを目にします。外国語の初級クラスにおいてこの3つは基本ですが、特に発音が難解だと言われる中国語において「多听,多说」(よく聞き、よく話す)ことは最重要課題です。外国語について「読み書きはできるが、話せない。」という人がいますが、その原因として発音への苦手意識、基礎的な語彙力不足があげられると思います。「話すのが恥ずかしい。」「とっさに言葉が出ない。」等という理由のほとんどは会話の実践練習が少ないせいで不慣れであることに起因しています。まず授業の中では「発声することに慣れる。」(脱羞恥心!)「基本的な単語やフレーズを身につける。」(基礎固め)ことを重視しています。

そこで、教科書の進行に合わせて課毎に単語テストを行い、簡体字やピンイン(中国語の発音記号)に慣れ、基本的な語彙力を身に着けさせるようにしています。1課で約20~25語を覚えるので、中国語Ⅱを終了する頃には400~500語もの単語を習得することになります。これは中国語検定4級程度の語彙力に相当します。

また、教科書の本文(会話文)の練習の際には極力ペアレッスンを活用しています。その際、学生には必ず相手の発音を注意深く聞き、おかしなところ(教員やCDの発音と違う部分)はお互いに指摘し合うよう指導しています。お隣同士で会話練習をすることにより人前で発音することに慣れ、相手の発音を注意深く聞くことで自分の発音の矯正にも役立っています。ペアレッスンの仕上げに会話文の暗誦チェックを行います。これによって会話のリズム感、実践力が身につく、暗誦チェックの結果「合格」点がもらえれば自信につながります。外国語の授業では学生が発声する機会は多ければ多いほど良いので、特に受講者数の多い外国語クラスにおいてペアレッスンの活用はとても効果的だと思います。

## 3、「中国人留学生との交流会」

やはり実践力を鍛えるには、実際に中国人と会話することが1番ですが、ほとんどの学生が実際に中国の人と会話できる機会になかなか恵まれないようです。しかし、幸い琉球大学には中国や台湾からたくさんの留学生が来ています。彼らの協力を得、学期末には必ず交流会を持っています。5~6名の学生の中に留学生1~2名を加えてグループを作り、其々のグループで自由に会話してもらおうという、至ってシンプルな方法ですが、学生達は教科書や辞書を片手に、時には筆談を交えながら嬉々として交流しています。たった90分の交流会ですが、学生達の反響は小さくありません。「思ったより通じた」「聞き取るのに苦労した」「もっと話したかった」等の率直な感想は「話せるようになりたい」という学習意欲につながっていきます。また、非常に勤勉で会話能力の高い留学生達と接することは、学生達にとってとても良い刺激になっています。蛇足ですが、この交流会は参加して

くれた留学生達にも大変喜ばれているようなので、今後も継続していきたいと思っています。

#### 4、「自己紹介」スピーチ発表会

また、交流会以外で例年取り組んでいるのが、中国語による自己紹介を兼ねたスピーチ発表会です。私が「中国語Ⅱ」を受講する学生に課している到達目標の一つに、「中国語で自己紹介や簡単なスピーチができるようにする」というものがあります。従って学生達には学期末に行う「スピーチ発表会」に向けて日頃から準備をするよう指導します。具体的には、学生に自己紹介をメインにした約 1~2 分間のスピーチ原稿を書かせ、事前にその内容を確認、添削の後返却し、各自で発表会に向けてスピーチの練習をするというものです。ほとんどが教科書で学んだことばを使った簡単なスピーチですが、中には3分以上にも及ぶ長いスピーチをきっちり暗記した学生や、婚約発表をした強者もいます。学生達には1年間の成果を実感してもらう機会として、この発表会に取り組んでもらっています。

#### おわりに

第二外国語で中国語を選択する学生の中には英語が苦手であるので、同じ漢字文化圏の中国語を選択したという学生が少なくありません。そういう学生は「英語ができないので中国語は話せるようになりたい」というタイプと「英語で挫折したのでとりあえず単位だけは取りたい」という、大きく二つのタイプに分かれています。大半は学習を始める前から「話せるようになる」と思っています。これはとても残念なことだと思います。もちろん、外国語を話せるようになるのは簡単ではありませんが、根気強く学べば「必ず話せるようになる！」という意識、「できそうだ！」という気にさせることが、今の学生には必要な気がします。

私が中国留学中に受けた中国語の授業と、日本での授業を比較した時に感じたのは授業中、中国人の先生方が「很好！（英語の Good に相当。）」「对了！（そのとおり。）」ということばを連発していたことです。授業中発言するのは結構勇気がいります。外国語の初学者ならなおさらそうだと思います。そんな時に先生から「很好！」「对了！」と言われると嬉しくてやる気になったものです。ありきたりですが、外国語を学ぶには「やる気、根気、勇気」が必要です。短絡的かもしれませんが、やはり授業中はできるだけ学生の発言に応えて「很好！」「对了！」と声を掛けたいと思っています。

William Arthur Ward に「普通の教師はただ話す。よい教師は説明する。優れた教師は態度で示す。偉大な教師は心に火をつける。」ということばがあるそうです。このことばを肝に銘じ、せつかく芽生えた小さな種火を消さないよう、大切に育てていきたいと思いません。